

図書委員のおすすめの本！



学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話

坪田 信貴 著

偏差値30のギャルの主人公のさやかちゃんが1人の塾講師と出会い心理学を使って偏差値を40上げて慶応大学に見事合格した話です。昨年の秋には映画化され見に行った人も多いのではないでしょうか？ぜひ、この本のほうも読んでみてください。



項羽と劉邦

司馬 遼太郎 著

この本は中国のお話で、漢文だったものがわかりやすく書かれています。2年生はこの話の一部を古典の授業でやったのでとても読みやすいでしょう。漫画もあるので小説が苦手な方はそちらのほうを読んでみてください！



デュララ!! (1~13)

成田良悟

非日常に憧れる少年竜ヶ峰帝人。彼は地元を離れ、東京・池袋へとやってきた。そこで首なしライダー、人間を愛する情報屋、自動喧嘩人形などに会い少年はどのように変化していくのか。シリーズ累計530万部突破した人気作です。是非読んでみてください。



少女不十分

西尾維新

小説家となって10年ほどになる「僕」は、担当編集者の結婚を期に、自らを作家たらしめているトラウマについて語り始めるお話。人気作家、西尾維新による新たなお話です。同作者による、物語シリーズや刀語とはまた違う雰囲気になっており、西尾維新作品を読んだことある人でも、新鮮な気持ちで読めるかと思います。是非読んでみてください。

佐藤千穂先生にインタビュー〜〜！

Q1 先生のお気に入りの本を教えてください。

- ①「ぐりとぐら」作・中川季枝子 絵・大村百合子
出版社 福音館
- ②「どこいったん？」作・ジョン・クラッセン
訳・長谷川義史
出版社 クレヨンハウス
- ③「よあけ」作と絵・ユリ・シュルヴィッツ
訳・瀬田貞二
出版社 福音館

Q2 その本を選んだ理由は何ですか。

3冊全て絵本です。絵本は子供の頃に読むものだと思われていますが、大人になって読み返してみても新たな発見があるなあと感じます。①「ぐりとぐら」は、ねずみのぐりとぐらが大きなパンケーキを作るという話です。小さい頃に読んだ人も多いかと思います。私はこの絵本をみると、子供のときに感じた「この完成したパンケーキのなんとおいしそうなことか！」という思いが鮮烈に浮かびます。子供の頃の素朴な感動を思い出させてくれるお気に入りの一冊です。一方で、②「どこいったん？」は怖い絵本です。お気に入りのぼうしがなくなって探すクマさん。いろんな動物に「どこいったん？」と尋ねて行きます…とメルヘンな感じがしますが、結末が「えっ」「…ええー！こわっ！」となります。結末のダークさは大人向けの絵本かもしれません。アメリカの絵本に大阪弁で翻訳している点も面白い本です。③「よあけ」は老人とこそものが湖畔にふねをうかべており、薄暗い中から夜明けをむかえるというお話です。文字では多くを語られず、淡々と、夜明けが美しいグラデーションの色彩で表現されます。”静謐さ(せいひつさ)”が伝わってくる絵本です。じんわりと不思議な一冊です。

Q3 日立北の生徒に一言お願いします。

いろんな本に出会うことはいろんな言葉を知り、さまざまな考え方をできるようになることだと思います。ほんとの出会いを楽しんでもらえたらよいなと思います。

図書館の雑誌 紹介 雑誌コーナーの雑誌紹介

アニメージュ



アニメファン必見！最新のアニメ情報が盛りだくさん！アニメファンも、そうでない人も、一度手にとって見ては？

Blue Earth



地球の様々な情報が掲載されています。今回は地球温暖化。このまま温暖化が進めば地球はどうなるのか？

MOVE



茨城県内の競技大会100大会の結果を徹底網羅！高校生たちの軌跡を見てみては？

